

# 令和4年度 事業報告

## 事業の概要

本年度の事業の概要は次の通りであります。

### 1、研究助成(公募)

公衆衛生の向上及び生活環境の保全を促進させる。  
研究や活動を行っている個人又は団体に対し助成金を支給  
今年度は下記のテーマに関連する研究を助成対象としました。

#### ①「感染症及び外来生物」

- ・募集期間 4月～12月
- ・応募件数 24件
- ・助成支給件数 10件 (100万円/件)

#### 「特定外来生物セアカゴケグモの分子基盤整備」

慶応義塾大学 特任准教授 河野暢明

#### 「Culicoides属ヌカカのメタバーコーディングに向けた配列データベース拡充と手法の整備」

(国研)農研機構 上級研究員 梁瀬 徹

#### 「鳥類の儀浴行動のもつ感染症予防効果の検証」

金沢大学 准教授 都野 展子

#### 「フラビウイルス属人工疑似ウイルスを用いた中和抗体測定法の開発」

富山県衛生研究所 主任研究員 矢澤 俊輔

#### 「 Dengue熱媒介蚊における吸血抑制機構の解明」

理化学研究所 研究員 佐久間 知佐子

#### 「マダニ胚由来細胞ISE6におけるCRISPR-Cas9によるゲノム編集法の確立」

奈良先端科学技術大学院大学 助教 椎森 仁美

#### 「衛生害虫に対する殺虫力の高いBT菌の探索分離及び反応メカニズムの解明」

広島大学大学院 特任講師 ナランダライ タンシーツウオーダ'ロ

#### 「節足動物への持続感染におけるフラビウイルス由来非コードRNAによる免疫抑制」

国立感染症研究所 主任研究官 西山 祥子

「福岡県におけるマダニ相と野生動物の関連性解析および新規マダニ媒介ウイルスの探索」

福岡県保健環境研究所 主任技師 小林 孝行

「トガリネズミに感染するマダニ媒介性動物由来感染症と媒介節足動物に関する研究」

国立感染症研究所 主任研究官 新倉 綾

## ②「生物機能の産業利用・工業化」

- ・募集期間 4月～12月
- ・応募件数 19件
- ・助成支給件数 6件（100万円/件）

「水産増養殖における新たな性統御技術開発に向けた魚類性転換メカニズムの解明」

広島大学大学院 研究員 野津 了

「酵素標識抗体の簡易調整技術の開発」

東京農工大学 教授 池袋 一典

「ナノ材料の直接給餌による革新的機能性錦糸の創出」

東北大学 助教 栗田 大樹

「安全安心な乳酸菌を用いたバイオフィルム(ぬめり)形成阻害物質の生産技術開発」

広島大学大学院 特任教授 野田 正文

「バイオDXによる昆虫遺伝子機能データベースの構築とその利活用」

広島大学 特任教授 坊農 秀雅

「酪酐症カンジタ株の遺伝的特徴を模した高エタノール産生株の創出」

大阪大学大学院 特任准教授 押鐘 浩之

## 2、奨学金事業

公衆衛生の向上や生活環境の保全を進める人材育成のため、国内の大学院生とアセアン諸国からの留学生に対し奨学金を支給した。

- ・令和4年4月より奨学生8名に月額5万円給付実施